

テレビ中継におけるステージと視聴者の
双方向コミュニケーション

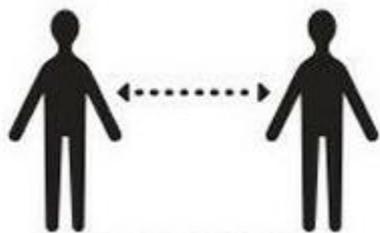


LAPINCREATE

株式会社ラパンクリエイト

<http://www.lapincreate.co.jp>

飛沫感染防止ガイドラインに沿った観覧方法



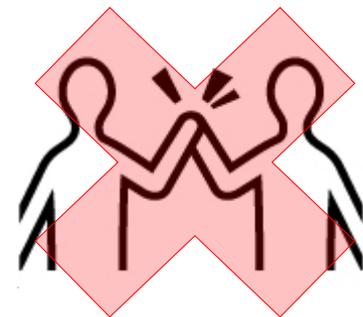
収容人数削減
最低1メートル



マスク着用



大声を出さない



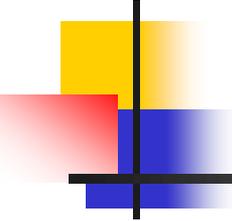
接触機会の低減

2020年7月10日策定
コンサートプロモーターズ協会
日本音楽事業者協会
日本音楽制作者連盟

様々な制約の中でコンサートを開催する必要があります



今までの様なコンサートは無くなり、一体感が生まれづらい・・・



コロナ禍での観客席

クラシック演奏会の観客席では演奏中に声を上げる事はもってのほかで、演奏終了後の拍手でステージとのコミュニケーションは成立します、これは演奏者と観客が長い年月をかけてのこの様式を認識している中で成し得るコミュニケーションと考えます。

ウィズコロナでは飛沫拡散による感染防止の為、全てのコンサートにこの様式が求められております。

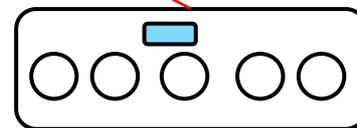
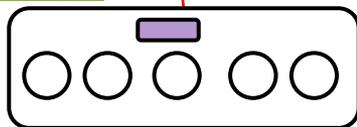
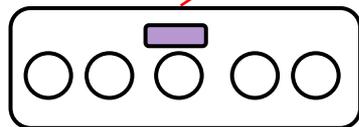
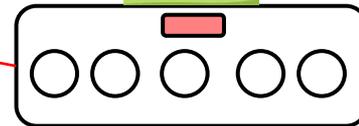
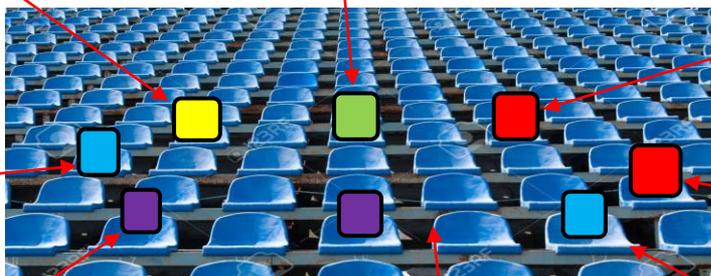
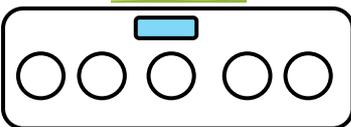
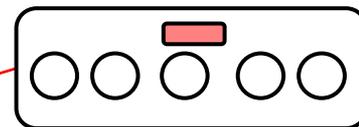
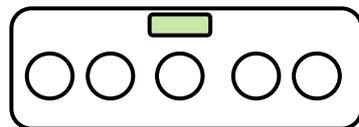
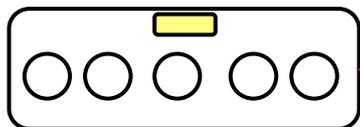
ウィズコロナ時台におけるライブを模索しています・・・
コロナによる規制の中、今までの様な興奮は生まれにくい
規制をかいくぐり無理なライブを行うのでは無く
新たなライブ様式を打ち立てる為

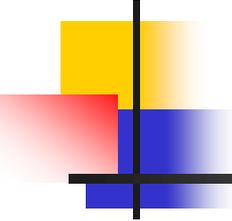
“アバター電飾”（国際特許PCT出願 2020JP／043397）

光によるコールアンドレスポンス
テレビ中継における双方向コミュニケーションを提案いたします。

生中継映像視聴でアバター操作

- テレビなど生中継会場の座席に設置した電飾ライトと、視聴者をインターネットで繋ぎ、座席のライトを自身の分身“アバター”として発光発色をリモート操作する事によりステージとのコミュニケーションが可能と成ります。





ステージとの一体感醸成

- 音声に遅延があると演奏聴取と同じ聴覚を使うので、遅延による違和感が大きく一体感の醸成をむしろ阻害します。
- 音声と違い発光は聴覚とは違う、視覚を用いるため多少のずれは許容できます。
- 事実ステージとスタンドでは音速と光速の差から映像・照明より音の方が遅れておりますが、一体感は阻害されておられません。
- それでも条件として出来るだけ遅延の少ない生中継が必要ですので、現段階のライブストリーミングは1分程の遅延があるので難しいと考えます。
- 地上波デジタルで有れば1秒台ですのでステージからのコールにもリアクション対応可能と考えます、また衛星放送、ワンセグは2.4秒程遅れる様です。
- 現段階では地デジとの組み合わせがベストとです。
- 映画館でのライブビューイングは配信拠点が10数件程度なので同程度の遅れですので対応可能と考えます。

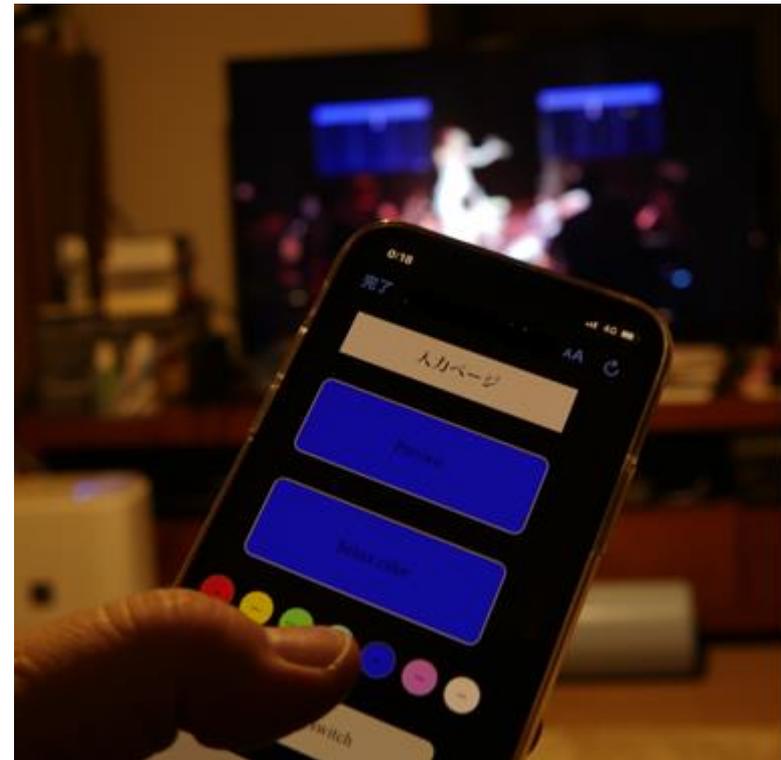
テレビ中継受信側遅延
8月28日総理記者会見ラジオ第1生中継音声で実測

地上波1.7秒程度遅延・BS2.4秒程度遅延

大人数の双方向コミュニケーション

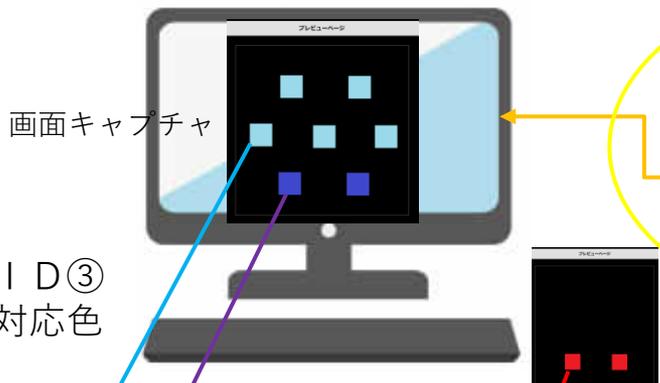
- 視聴者側は地デジで1.7秒程度の遅れた映像を観て、それに合わせ複数個のスイッチで自分の席の電飾発光をコントロール出来ます。
- きっかけからレスポンスまで数秒の遅延とは成りますが、発光、発色なので、会場の雰囲気や音を阻害する事は無いと考えます。
- 256色で有れば8ビット送信で済み、映像や音声を送る事と比較し、圧倒的にデータ量が少ないのでデータ処理の遅延を最小限に出来ますので、千人単位の同時処理が可能と考えます。

(ユーザ側のインターネット環境により影響を受けます)



光演出技術EXPO展示システム

コントロールPC



インターネット

アバターシステム
サーバー

お持ちのスマホ・PCで
割り当てのURLでWEBサ
イトにアクセスしてご体
験頂けます

ID②+色情報

ID①+色情報

ID③+色情報

